

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度	令和5年度
------	-------

1 基本情報

公の施設名	市民・大学交流センター（ユニコムプラザさがみはら）
指定管理者名	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設設置条例	相模原市立市民・大学交流センター条例
施設の設置目的	市民と大学等との連携により、地域の課題の解決及び地域の活性化を図る （相模原市立市民・大学交流センター条例第2条）
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> 所在地 南区相模大野3丁目3番2-301号 床面積 2,965.82㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造 施設 セミナールーム1・2、実習室1・2、ミーティングルーム1・2・3・4・5 マルチスペース、AVスタジオ、シェアードオフィス1・2・3、 大学情報コーナー、地域情報コーナー
施設所管課	市民局 市民協働推進課

2 管理実績

項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
利用者数合計（人）	34,162	58,011	96,434	105,033			
利用料金合計（円）	12,368,435	24,217,866	34,299,916	35,416,843			

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
D	<p>達成度が80%未満のため、基準に基づき評価は「D」となるが、大学地域連携アドバイザーの設置に向けた取組や利用率向上に向けた取組を行っていることを評価する。良い連携事例、事業を数多く行っていることから、よりアピールしていただきたい。</p> <p>■指標1の達成度については、前年度よりやや低下し、コロナ禍前の数値を基準とした目標値に対して78.9%となっている。コロナ禍後のリモート環境の一般化などの影響も考えられる。</p> <p>■指標2の達成度については、(1)シェアードオフィス33.9%、(2)大学情報コーナー100%、(3)地域情報コーナー94.4%となっている。シェアードオフィスについて、達成度が前年度に比べ5.4ポイント上昇したものの、依然として低い状況である。しかし、地域連携アドバイザーの設置に向けて検討を行うなど、利用率改善に向けた取組を行っていることを評価する。</p> <p>■指標3の「市民と大学との橋渡し」については、24件で前年度より3件増加したものの、目標値には届かなかった。市内で活動する市民団体との良好な関係を構築し、大学等との連携相談が増えるように市民団体への積極的な働きかけをするとともに、内容の高度化も図っていただきたい。</p> <p>■指標4(1)は4団体をまちづくりモデル事業として新規に認定したことにより、対話の数の達成率が100%であった。前年度以前に認定した団体の活動も継続して支援していることや、学生の参画に結びつけていることを評価する。指標4(2)のまちづくりプロジェクトについては、目標の6件に対し、1件の実績値となった。依然として達成度は低いため、今後指定管理事業として最優先で取り組んでいただきたい。活動報告会など各団体の活動を広く周知することで、多様な主体を巻き込むプロジェクトへの発展に繋げていただきたい。</p>

指標1							
指標名(単位)	【指標1】有料施設の利用率(シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーを除く)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 有料施設の利用コマ数/有料施設の利用可能コマ数×100 有料施設の利用率を指標とすることで、施設の活用を図るとともに、施設利用者への施設の設置目的の認知度向上を推進するもの。						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	84.0	85.0	77.0	79.0	81.0	83.0	85.0
実績値(%)	58.5	57.2	63.5	62.3			
達成度(%)	69.6%	67.3%	82.5%	78.9%	-	-	-
指標2(1)							
指標名(単位)	【指標2(1)】有料施設の利用率(シェアードオフィス)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数/利用可能日数×100 【①個人<30名>、②団体<8団体>、③大学<4大学>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	84.0	85.0	42.0	46.0	50.0	54.0	60.0
実績値(%)	34.7	29.4	28.7	33.9			
達成度(%)	41.3%	34.6%	68.3%	73.7%	-	-	-
指標2(2)							
指標名(単位)	【指標2(2)】有料施設の利用率(大学情報コーナー)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数/利用可能日数×100 【(大)<15ブース>、(小)<3ブース>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値(%)	113.3	120.0	120.0	120.0			
達成度(%)	113.3%	120.0%	120.0%	120.0%	-	-	-
指標2(3)							
指標名(単位)	【指標2(3)】有料施設の利用率(地域情報コーナー)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数/利用可能日数×100 【(小)<9ブース>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(%)	84.0	85.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値(%)	98.4	93.6	97.2	94.4			
達成度(%)	117.1%	110.1%	97.2%	94.4%	-	-	-

指標3							
指標名(単位)	【指標3】地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡し件数(件)						
指標式と指標の説明	<p>市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)と大学が連携して、地域の課題解決や活性化を実現するための助言や企画提案等を行った件数を指標とすることで、センターの設置目的の達成を図るもの。</p> <p>※対象自体の企画・運営にセンターが携わり、助言・企画提案を行ったものとする。(募集・事業の周知を除く)</p>						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(件)	26	26	27	28	28	29	29
実績値(件)	28	27	21	24			
達成度(%)	107.7%	103.8%	77.8%	85.7%	-	-	-
指標4(1)							
指標名(単位)	【指標4(1)】「地域づくりプロジェクト」の対話の場の数(回)						
指標式と指標の説明	<p>「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の1つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。</p> <p>『地域の課題解決等に向けて具体的テーマに沿って定期的に活動を行う団体(市民、大学)を募集し、大学と地域との連携を望む事業を認定する。その後、当該団体と取組の内容、方法、目的等について、様々なアイデアを出し合い企画、立案、検討等を行う機会。』</p>						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(回)	4	4	4	4	4	4	4
実績値(回)	7	4	5	4			
達成度(%)	-	-	125.0%	100.0%	-	-	-
指標4(2)							
指標名(単位)	【指標4(2)】実施した「地域づくりプロジェクト」の本数(本)						
指標式と指標の説明	<p>「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の2つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。</p> <p>『プロジェクトを進行させるため、協力する大学が1つ以上あり、企画段階で出されたアイデアを実践することや、目的の達成のために必要な人材の募集や資源の収集などを行うことで、プロジェクトとして設定した目的に沿った事業を実施する。』</p>						
項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値(本)	4	5	5	6	6	7	7
実績値(本)	0	0	0	1			
達成度(%)	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	-	-	-

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	<p>評価基準に基づき、評価は「A」とする。</p> <p>■①大学との連携に係る減免利用が増えていること、学生団体のフリースペース利用が増えていることを評価する。今後も大学、学生による施設利用を促進していただきたい。</p> <p>■②施設の情報発信については、学生団体と連携した広報を評価するが、依然として施設や事業の認知度に課題がある。また、ホームページや施設内での周知に留まらず、SNS等の広く発信できるツールや、紙媒体を効果的に活用し、新たな接点づくりに繋げていただきたい。</p> <p>■③橋渡しの前段階となる相談件数が減少しつつあることに課題がある。相談者への寄り添った対応や、大学のニーズの丁寧な聞き取りを行っていただきたい。大学の専門性を活かした連携の増加や、完了までに時間を要する取組への長期的な視点での支援にも取り組んでいただきたい。また、施設による助言・企画提案の事例を紹介し、連携相談のハードルを下げるような取り組みに期待する。</p> <p>■④まちづくりフェスタを引き続きイベントデーと交流展示会の2本立てで開催した。また、市民活動サポートセンターと協働し、「NP0×企業×大学のコラボ会議」を実施し、実際の連携に繋がったことを評価する。インターンシップ学生による団体の設立や、地域活動団体との連携を支援していることを高く評価する。</p> <p>■⑤さがみはら地域づくり大学について、見学講座の充実のほか、受講生による展示など周知に特に力を入れたことにより、受講生の増加につながった。また、コーディネーターズサークルのメンバー間の活発な交流を支援していることを高く評価する。各講座の定員を満たすよう、講座内容の魅力向上、広報の強化など可能な手段は今まで以上に積極的に行っていただきたい。</p> <p>■⑥オーサースカフェについて、長く継続していることを評価するが、大学との連携に繋がる内容や新規来所者へ向けた周知も検討いただきたい。また、フリースペースのさらなる活用により、センターの利用促進に努めていただきたい。</p> <p>■⑦利用者満足度の結果だけでなく、日頃から寄せられているオンライン予約への要望や、予約時の対応、利用条件の緩和など、利用者目線や利便性も考慮して運営に反映していただきたい。</p> <p>■⑧大学・学生や地域団体などとの連携がより発展するよう、他の協働推進拠点のイベントや事業に、事業担当も参画して相互の業務の情報共有や関係性の強化を図っていただきたい。</p> <p>■自主事業については、事業回数の増加や内容をより充実させるよう検討いただきたい。小学生向けのワークショップなど人気の高いものは積極的に取り入れるとよい。</p>

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
大学連携に係る施設利用等に関する事業 事業計画書①	通年	大学連携に係る施設利用等に関する事業	○
	通年	<p>【大学連携に係る施設利用】</p> <p>大学との連携により地域の課題の解決又は活性化を図るための事業のための利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大学連携に係る減免利用数：16件〔前年度比 +3〕 ■学生団体の減免利用：0件〔前年度比-3〕 <p>※学生団体についてはフリースペースの利用が増加している。</p>	◎
	通年	<p>【団体登録】</p> <p>大学等との連携により地域の課題解決又は活性化を図るための事業を施設にて実施する団体の登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ■登録団体数：44団体〔前年度比+1〕 	
さがみはら地域づくり大学の運営等に関する事業 事業計画書⑤	通年	地域活動や市民活動への参加方法を知り、活動に結びつけ、更に活動を牽引する担い手づくりを目的とした事業	
	7月～12月	<p>【さがみはら地域づくり大学】</p> <p>市民等が、協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために役立つ知識や技術を体系的に学ぶことのできる場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講座数：15講座 <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座：2講座、市民企画講座：2講座 ・地域活動コース：4講座、専門講座：7講座（専門講座1講座は急遽中止） ■受講者数【目標値：コース受講者数：20名】 <ul style="list-style-type: none"> ・講座受講者数：56名〔前年度比+2〕 ・コース受講者：21名（うち短縮版コース4名）〔前年度比-2〕 ・コーディネーターズサークルメンバー新規登録者数：13名〔前年度比+1〕 	
	通年	<p>【コーディネーターズサークル】</p> <p>修了者の活動のフォローやスキルアップ、修了者同士の交流に繋がる機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ■開催数：4回、延べ参加者数47名 	

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
大学の研究教育活動や地域連携の取組等の情報を発信する事業 事業計画書②	通年	情報コーナー出展大学・団体による地域貢献の取組事例や市民・他団体、大学との連携について紹介する事業	△
	通年	【情報誌UNICOM PAPERの発行】 施設の事業、大学・施設利用者の活動や、市民と大学との連携に関する情報の紹介 ■年6回隔月発行、毎月1,200部、約100ヶ所に配架	
	通年	【施設及び事業の広報・PR】 センターの利用、市民と大学との連携促進を目的としたPR ■ホームページ ■SNS (Facebook、Twitter、Instagram) ■イベント・事業のチラシ	
通年	市民と大学が連携を深め、課題を共有し、大学の専門性と人材を活用して地域課題の解決や地域の活性化に取り組むための橋渡し事業	△	
地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡しをする事業 事業計画書③	通年	【市民・大学等のニーズ・シーズ把握調査】 ・市民のニーズ・シーズ：シェアードオフィス入居者、登録団体、施設利用者から活動情報等の聞き取りをし、橋渡しの可能性のある団体などへは情報提供や支援を行っている。 ・大学のニーズ・シーズ：コンソーシアム加盟大学及びセンターの大学情報コーナーを利用している大学との面会を通じ、情報収集を行っている。	
	通年	【市民と大学等の連携支援】 ■相談件数：延べ226件(同一案件の重複あり)〔前年度比-3〕	
	通年	【シェアードオフィス交流会】《年間12回計画》 入居者同士の連携、協働を目的とした交流会 ■開催数：12回 各月参加団体数：8～14団体	
市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する事業 事業計画書④ まちづくりモデル事業《指標4(1)》、まちづくりプロジェクト《指標4(2)》は「3成果指標の達成度」にて評価している	通年	実行力を持つ市民と大学が交流する場を設定するとともに、協働して研究する機会を提供する事業	◎
	通年	【学生を主体とした事業】 学生が主体的に地域で活動できるように、地域団体との連携や協働、センター事業への参画を促進する事業 例)・地域団体の広報支援(ポスター・チラシの作成、インスタグラムによる情報発信) ・まちづくりフェスタへのボランティア参加 ・「SDGsでつながろう! NPO×企業×大学のコラボ会議」への講師登壇、交流会参加 ・市食材支援事業との連携企画の検討	
	通年	【学生インターンシップ】 施設でのインターンシップ受入れによる学生支援 ■受入数：17名	
	①交流展示会 10月1日～31日 ②イベントデー 10月15日(日)	【第10回まちづくりフェスタ】《年間1回計画》 まちづくりをテーマとした市民と大学の協働事業の成果を発表・共有し、交流を図る事業 ■出展：①21団体 ②17団体 ■見学者：②425名	
	令和6年 1月14日(日)	【ユニコムサミット】《年間1回計画》 地域に関するテーマに関わる団体や専門家が直面する課題についてディスカッションを行う事業 ■タイトル：「SDGsでつながろう! NPO×企業×大学のコラボ会議」 ■参加者：77名	

センターの利用促進を図り、施設の活性化を促進する事業 事業計画書⑥	通年	センターの利用と、市民と大学との連携の促進を目的としたPR活動・情報発信する事業	○
	通年	【フリースペースの活用】 大学や学生団体等の活動発表の場として、フリースペースを提供。 例) ・大学・高校等の作品展を開催 ・まちづくりプロジェクト団体の情報をホワイトボードに掲示 ・地域づくり大学受講生の成果物・活動内容の展示	
	通年	【オーサーズカフェ】《年間24回計画》 市民向けに「身近な話題をテーマにした講座」を実施し、施設来所者を増やす事業 ■開催数：24回 ■参加者：延べ906名〔前年度比+100名〕	
	通年	【ユニコムセミナー】《年間3回計画》 大学との連携を希望する個人・団体と大学が交流する場 ■開催数：4回 ■参加者：計150名	
	7月～8月	【アートイベント】 近隣の美術系大学や高校と協力し、市民が芸術を気軽に楽しむきっかけを提供する事業 ■開催数：1回(高校、大学の写真部と個人による合同写真展) ■出展者：4団体と10名 ■作品数：41作品	
通年	利用者アンケートの結果からの改善により、利用者への利便性、サービス向上を図る事業	○	
センターの利便性向上を図る業務 事業計画書⑦	通年	【利用者からの要望対応】 利用者アンケート・満足度調査などで得られた利用者からの意見の反映 ■対応内容：無線wifiの電波強化の意見に対し、ルーターを増設し対応した。	
	通年	【調査報告書の公開】 調査報告ならびに結果を施設ホームページで公開した。	

協働推進拠点間の連携及び 団体間の交流機会の創出 事業計画書⑧	通年	センターが市民・大学や協働推進拠点と連携して、各主体の地域活動を支援する事業	○
	通年	【協働委員会】 団体間の交流の場として、相互の活動紹介や情報交換等が行える機会を創出し、協働による取組みを促進。 ■対応内容： 協働委員会の仕組みの検討も兼ねて、「SDGsでつながろう！NPO×起業×大学のコラボ会議」をさがみはら市民活動サポートセンターと共催で開催。今後はこの結果も踏まえつつ、同センター等の協働推進拠点と連携しながら、大学と地域の協働を促進する方策を、委員会とは別の形で検討する。	
	通年	【センターにおける市民との連携】 センターと市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)とで連携した取組 例)・10月に開催したまちづくりフェスタには多くの市民団体や大学、学生が出展し、交流が生まれた ・年間を通して、まちづくりモデル事業として、地域団体等のセンターでの活動を支援した。	
	通年	【センターにおける大学・学生との連携】 センターと大学とで連携した取組 例)・大学ゼミの取組展示 ・大学写真部の作品展示 ・学生ボランティア団体によるイベント ・施設事業での大学教授への講師登壇	
	通年	【センターにおける市各課・関連施設との連携】 センターと市各課・関連施設とで連携した取組 ■さがみはら市民活動サポートセンター ・市民活動相談会、「市民活動情報コーナー」の設置 ■環境情報センター(エコパークさがみはら) ・地域情報コーナーに出展 ・環境イベントの開催(環境まつりの会場とした) ・広報の相互協力 ■その他 ・ソレイユさがみとの広報の相互協力 ・市立博物館の学芸員の方が、オーサーズカフェに講師として登壇。 ・まちのコイン「すもー」を活用した、SDGsスタンプラリーの実施。「ゴール17」対象施設。	

自主事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
チャレンジショップ	令和6年3月	【チャレンジショップ】1回実施 センターと大学の知名度向上や、学生の社会経験や起業を期待して、大学の資源をセンター内で提供する取組 ・令和6年3月3日(日)13:00～14:00 相模女子大学学生プロジェクトによる「電子回路ペン体験講座」 参加者 小学生5名、同伴者8名	○

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	<p>達成度が106.9%のため評価基準に基づき、評価は「A」とする。</p> <p>■引き続き高い満足度であることを評価する。貸館業務主体の数値だけでなく、市民と大学との連携に係る事業の当事者の満足度も数値化できるとよい。学生からのアンケート回答や意見の聴取により、学生の利用のしやすさに反映することを期待する。</p> <p>■オンラインやSNSを活用したアンケートを試行し、より満足度の高い運営を目指している点を評価する。</p> <p>■施設運営への理解が概ね得られている一方、少数ではあるがやや不満・不満といった意見もあるので、職員間で共有し改善することで今後の運営に役立てていただきたい。</p> <p>■施設や事業の認知度や、どうすれば利用や参加したくなるかの視点も盛り込んだ分析や検討を、今後も継続的に行っていくことを期待する。</p>

利用者満足度調査											
調査手法/サンプル数	<p>各部屋及び窓口にアンケート用紙を設置し、利用終了後に施設の入口横に設置した回収箱または窓口にて回収。</p> <p>■520件《調査期間：R6.1.4～3.3：60日間》</p>										
目標値の基準	<p>一般利用者の施設に対しての満足度、利用者の性別、年齢、住まい、職業、利用頻度、利用目的及び利用頻度などを調査した。</p> <p>目標値は、次の10項目について、「やや満足」以上の評価平均が90%以上であることとした。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①利用のしやすさ</td> <td style="width: 50%;">⑥地域づくり大学</td> </tr> <tr> <td>②設備や備品について</td> <td>⑦まちづくりフェスタ</td> </tr> <tr> <td>③職員の利用者への接し方</td> <td>⑧まちづくりモデル事業</td> </tr> <tr> <td>④オーサースカフェ</td> <td>⑨橋渡し・相談事業</td> </tr> <tr> <td>⑤市民・大学交流会</td> <td>⑩総合的な満足度</td> </tr> </table>	①利用のしやすさ	⑥地域づくり大学	②設備や備品について	⑦まちづくりフェスタ	③職員の利用者への接し方	⑧まちづくりモデル事業	④オーサースカフェ	⑨橋渡し・相談事業	⑤市民・大学交流会	⑩総合的な満足度
①利用のしやすさ	⑥地域づくり大学										
②設備や備品について	⑦まちづくりフェスタ										
③職員の利用者への接し方	⑧まちづくりモデル事業										
④オーサースカフェ	⑨橋渡し・相談事業										
⑤市民・大学交流会	⑩総合的な満足度										

項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値 (%)	95.5	97.4	96.9	96.2			
達成度 (%)	106.1%	108.2%	107.7%	106.9%	-	-	-

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
オンラインアンケートの試行(104件)	令和6年1月～2月	施設利用者向けにLINE登録(市内・外)を促し、調査時に登録者に対してオンライン上で、Googleフォームによるアンケートを実施。施設内の机や、紙のアンケート用紙にもQRコードを記載。
SNSでのアンケートを試行(140件)	令和6年1月～2月	まちのコイン「すもー」等と連携し、SNS経由でのアンケート調査を実施。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
B	<p>事業収支、全体収支としては赤字のため加点なし、法人の財務状況としては特段の課題はないため加点10点とする。計10点として評価基準に基づき、評価は「B」とする。</p> <p>■ 本体事業収支、全体収支は約12万円の赤字であるが、運営上、令和4年度分の物価高騰に係る損失補償(約52万円)を含めた額では黒字(約40万円)であり、コロナ禍後収支状況が改善したことを評価する。</p> <p>■ 節電対策により光熱費の支出が減少するなど、自主的な努力として細かな要因分析を行って施設運営したことを評価する。一方で、満足度の高いサービスの維持にも留意いただきたい。</p> <p>■ 申請当初の事業計画予算と比較して、経費の見直しにより事業費が減少しているが、まちづくりプロジェクトや橋渡しの渉外など、大学連携に係る指定管理業務の遂行に充てていただきたい。</p> <p>■ 備品購入や施設修繕等の利益の還元は、費用対効果と全体収支のバランスを考慮した上で引き続き行っていただきたい。</p> <p>■ 法人全体の正味財産増減計算書では増収増益となっているため、団体本体の法人としての経営状況としては問題ないと思われる。また、規模が小さいので何か突発的な事件事故等が発生すると影響が大きい可能性があるが、総資産の70%は預金であり前年より増加しているため、すぐに何かあるわけではないと思われる。</p>

施設の収支概要	※直近3年間について記載			(千円)
項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
収入 (a)	74,412	75,641	75,935	
指定管理料	37,873	36,229	35,996	
利用料金収入	25,032	36,302	37,964	
その他の収入	11,507	3,110	1,976	
支出 (b)	75,841	78,168	76,058	
人件費	42,295	46,270	47,371	
本社管理経費	2,434	2,918	2,918	
その他の支出	31,112	28,980	25,769	
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)	-1,429	-2,527	-123	
自主事業収入 (d)	0	0	0	
自主事業支出 (e)	0	0	0	
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)	0	0	0	
全体収支 [(c)+(f)]	-1,429	-2,527	-123	
備考	<p>(a) 収入は、前年度比較では1.1%の増 ・ 指定管理料は、利用料金改定に伴う減額により0.6%減 ・ 利用料金収入は、コロナ禍からの回復により4.5%増 ・ その他の収入は、コロナ禍に係る協力金や補助金の減少による減</p> <p>(b) 支出は、前年度比較では事業関連経費が減少し、2.7%減 ・ 人件費は、窓口の新規職員採用に伴い2.4%増 ・ 光熱水費は、節電対応等により4.9%減 ・ 事業関連経費は、委託料などの減により10%減</p> <p>(c + f) 全体収支は、約12万円の赤字となっている。なお、運営上は、令和4年度分の物価高騰に係る損失補償(約52万円)を含めた額では黒字(約40万円)である。</p>			
団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。			

7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング・現地確認により検査を実施	
実施時期	令和5年7月	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	×
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	-

9 指定管理者の自己評価

■利用率について

コロナ後の利用の回復は見られるものの、コロナ前の水準には戻らず、大学情報コーナー以外は成果指標の達成には至らなかった。部屋の利用としては、夜間の時間帯やマルチスペースの利用率が伸び悩んだ。また、コロナ禍によりリモート環境が一般化したことにより、従前は実施されていた集合研修の利用も見られなくなった。シェアードオフィスについてコロナ禍前は月2件程度の間合せがあったが、現状ではほぼ無くなっている。大学情報コーナーは、指標の目標値を達成できたものの、実態としては、大学側の現物による情報発信ニーズは低下している。施設の利用については、こうしたコロナ後の社会環境の変化の影響を大きく受けたと感じている。

今後は利用者のご意見、ニーズを踏まえ、利用者の立場に立った改善に取り組み、快適に利用頂ける施設運営に努めてまいります。

■大学と地域の連携

令和5年度のインターンシップに参加した学生が団体を立ち上げ、以降、当施設を拠点に活動を初めており、この団体と連携し、施設のイベント情報を発信する取り組みも開始した。この他にも橋渡しを中心に成果指標に関する取組みを進めたが、内容については、玉石混濁と言わざるを得ない状況だった。大学連携としてのプラットフォームとしての機能の強化が必要だと考えており、今後は次の取組みを進めたい。

①学生活動の支援の充実

- ・学生の地域活動についてのマッチングの仕組みの検討
- ・まちづくりプロジェクト等を通じた学生スタートアップの実践機会の提供
- ・社会課題解決のためのアイデアコンテストなど、当施設で学生が様々なチャレンジができる機会の提供

②中間支援組織との連携の強化

- ・市民活動サポートセンターや社会福祉協議会ボランティアセンターとの協力による大学地域連携コーディネート
- ・その他の中間支援組織とも連携を順次拡大

③優良事例の蓄積と情報発信

- ・具体的な優良事例の紹介など情報発信の充実

■地域づくり大学

講座の内容や構成の改善の結果、受講生の増加、若年層の参加、満足度の向上が図られた。また修了生が参加できるコーディネーターズサークルは、過去6名程度だった参加数が、令和4年度に続き令和5年度も12名となり、活動の輪が広がるとともに地域活動の実践者が生まれるなど、成果があがっている。

10 所管課意見

■「地域づくり大学」について、運営委員会の意見を反映し、受講生同士が楽しく交流できる雰囲気作りを行ったことを評価する。また、修了後の活動に繋がるよう、修了生への支援を継続していることを高く評価する。

■学生団体の設立支援など、学生への活動支援に力を入れていることを評価する。

■貸館業務においては、利用者アンケートの意見も参考にしつつ、人員配置やオペレーションなどを見直すことで利便性・効率性の高い運営を目指していただきたい。特に夜間の利用率改善に取り組んでいただきたい。

■市民と大学との橋渡しに向け、より地域活動団体・大学のボランティアセンター等との繋がりを深め、気軽に安心して相談を受けられる環境づくりに努めていただきたい。さらに、市民活動サポートセンターをはじめとする中間支援組織との連携についても力を入れていただきたい。

■施設の取組事例集やSNSなど幅広い人が見る媒体の活用により、施設・事業の知名度の向上を図っていただきたい。また、こうした取組により、新たな層の地域活動への参加を促進していただきたい。加えて、施設の担っている役割や実際に行った支援の内容を見える化し、施設の魅力を対外的に発信することに力を入れていただきたい。

11 選考委員会意見

■地域づくり大学について、藤野地区の見学講座など受講生が現場にて地域活動の実践者の話を伺い、活動を具体的にイメージできるような工夫をとっていることや、一過性でなく継続的に修生生の支援を行うことで、地域活動の担い手育成に力を入れており、受講生の口コミでの増加や、新たな実践者としての活躍への発展などの成果を高く評価する。引き続き満足度の向上を図り、地域活動の輪を広げていく講座の運営に期待する。

■市民と大学との橋渡し事業については、件数の増加には限界があると考え。市民から大学への直接の連携依頼はハードルが高いことから、市民に対して大学との調整・交渉を支援していただき、連携支援の専門窓口として、特に連携の質を意識したコーディネートに期待する。数多くの良い取組を行っているものの、良さをアピールしきれていない面もあり、今後は橋渡しの好事例をまとめた事例集などにより、センターの橋渡し機能の周知に努めていただき、市民や大学が事例を参考にして、新たな相談や連携に繋げやすくなるとよい。

■シェアードオフィスについては、利用条件が多く活用が難しいが、学生が気軽に来所し活動できる場の提供等、引き続き利用率向上に向けた取組を期待する。

■施設運営については、職員間で節電委員を設けて電力使用量を分析し懸命な節電を行ったことを高く評価する。また、施設の経年劣化にも対応しつつも、運営上は概ね黒字となっており、今後も一層の努力を期待する。

■満足度調査では、貸館利用者の意見のみならず、地域連携をした大学・学生或いは地域活動団体などの関係者の満足度も数値化できるとよい。また、センターの事業に関わる学生にもアンケートを行い、学生が活動しやすい施設として学生の意見が施設運営へ反映されることが望ましい。

■今後も市民団体や大学に対して緊密で良好な関係を築き、双方から相談を受けられるような接点づくりに引き続き期待する。特に学生に対して、施設でできることをネットワークやSNSを活用し周知していただきたい。多くの人の目に触れたり、来所するきっかけを作り、ユニコムプラザに来れば、市や地域・大学の情報が分かる、頼りになる存在を引き続き目指していただきたい。

総合評価 (自動判定)

B

(55/100)

